

アクティブ・ラーニング導入による カリキュラム・教育方法・学修支援環境の統合的な改革

金沢大学

金沢大学人間社会学域国際学類ヨーロッパコース 笠原 出帆

1 金沢大学 AP 事業の概要

金沢大学では、I 学域・学類の中核をなす科目群でのアクティブ・ラーニングの深化・充実、II アクティブ・ラーニング(AL)に適した学修環境の活用・展開、III 学修過程・成果の可視化による学修評価の定量的評価(IR)の3つを柱として、学生の主体性を涵養するカリキュラム・教育方法・学修支援環境の統合的な改革を進めた。

2 アクティブ・ラーニング・アドバイザー(ALA)とは

AL型授業において、授業時間内外で受講生の学修の支援をする学生。教員一人では十分に目を行き届かせることが難しい中～大人数授業でのグループワークにおいて助言や問いかけをしたり、授業時間外に学生が演習課題やレポート作成、発表準備等の予習・復習をする際に支援したりと幅広い活動を行っている。これらの学修支援を通して、受講生の学修を充実させ質を高めること、そしてALA自身が授業に関する理解を深めたり教える力やコミュニケーション能力など様々な能力を高めたりすることを目的とした学生である。

3 ALA 活動紹介

ALAの役目としては学生が自主的・積極的に授業に参加できるように支援することであり、授業担当教員のヘルプ(ex. 座席、資料配布、出席確認 etc.)、学生の質問対応(ex. レビューセッション)、グループ演習学修支援、授業中の学生の様子をチェックなどを行っている。

4 ALAの活動での留意点

- ✓ 授業中に教室を周回し、ペア活動やグループ活動でしっかりと意見を言えているか、積極的に発言し、周りの意見を聞きつつそれを踏まえて考えられているかを確認する
- ✓ 積極的な人→他人の意見をしっかりと理解してるか、それに対してどう考えるか、自分の意見をより掘り下げて考えるために質問する、自分の意見に対する他人の意見を聞くよう促す
- ✓ 複数の事柄を関連付けて考える力の欠如→授業で学習した内容を基に言い換えたり、考えに盛り込んでみたり、他の内容と関連付けてみたり、より深く考え理解するために助言する
- ✓ アドバイスをする際、全てを導かない(教えない)=その人個人の考えを尊重する→こちらから全て誘導してしまうと、その人個人の考えを否定したり摘み取ったりすることに繋がる可能性があり、その人が自発的に考えることを妨げてしまう恐れがある。あくまでもその人の考えを聞いてそれをより理解しやすくしたり、深めたり、違う観点を提示してみたりとその人個人の考えを大きく、深くするための支援をする
- ✓ あえて敬語を使わないようにする→初対面の人とあまり話ができないように、こちらが敬語を使うと壁を作ってしまう、よそよそしく感じることで意見を言いにくくなってしまう。そのため、親近感を持たせ場の雰囲気軽くすることによって発言しやすい雰囲気作りをする

5 学生への影響

+積極的に発言するようになることでグループ活動や議論が活発になった/**+**ALAの存在による安心感があり、わからないことについて質問がしやすく、授業内容の理解が深まった/**+**他の受講生と協力して活動することの重要性に気づいた/**+**ALAに助言を受けたり相談することの重要性に気づいた **-**ALAや他学生に過度に頼る学生が出てきた(意見を考えず丸投げする、教科書の内容をそのまま述べるだけ etc.)/**-**参加する学生の負担多(人と接することが得意でない人にとっては精神的苦痛になる可能性、授業内外での学習に多く時間をとられ拘束される etc.)

6 今後の展望

昔はアクティブ・ラーニングという言葉はあまり聞かなかったが、今では多く所でALの必要性が認識されるようになった。これは、今まで授業をただ座って受けて学習したことを鵜呑みにする時代が終わり、自分から積極的に考える力が必要とされる時代の到来を意味する。少しずつではあるが、ALを意識した授業で成果は現れている為、ALAの活動によって、授業内外問わず自主的に物事を考え行動するようになる為に少しでも役に立つことを願う。